

分担金・拠出金の名称	赤十字国際委員会(ICRC)拠出金	平成28年度 予算額	191,477千円	総合 評価	B
拠出先の国際機関名	赤十字国際委員会(ICRC)				
国際機関の概要	<p>・赤十字国際委員会(ICRC)は、紛争時に犠牲者等を保護するために中立的な立場で介入することを国際法で認められている国際的な機関。戦時救護を目的として1863年に設立(ノーベル賞を3度以上受賞した世界唯一の機関で、人道機関としては最も歴史が長い)。</p> <p>・ICRCは、紛争犠牲者の保護を中心として、医療支援、食糧・生活物資等の支給、飲料水供給、衛生活動等の「緊急人道支援」を実施。</p> <p>・我が国や他の国際機関が安全・能力上の制約から支援不可能な状況・場所で、時に「唯一の援助機関」として活動。</p>				
評価基準		達成状況			
1. 当該機関等の専門分野における影響力・貢献	<p>・ICRCは武力紛争下におかれた国内避難民や難民などに対し、他の支援機関が治安状況の深刻化に伴い撤退を余儀なくされる地域を含め最前線において活動を展開する。中立原則を厳格に堅持する形で、安全確保を図りつつ活動を継続し、人道主義を体現する機関として、他の国際機関と一線を画しており、とりわけ紛争下の人道支援における貢献が高い。</p> <p>・近年では、シリアにおける紛争の影響で同国内で孤立化した地域の住民支援や、国内紛争が激化したイエメンの国内避難民に対する支援等を実施し、これら地域の情勢の悪化による影響を緩和させることに貢献している。</p>				
2. 我が国重要外交課題遂行における当該機関等の有用性(意思決定における我が国のプレゼンスを含む)	<p>・人間の安全保障の観点からは、紛争下の脆弱な状況におかれた人々に対し、基礎物資の提供や医療支援を毎年積極的に実施。</p> <p>・女性支援分野においては、2014年の国連総会一般討論演説で安倍総理から表明した性的暴力防止・被害者支援分野について、ICRCは、紛争下における性的暴力防止の高い専門性を有し、支援を積極的に実施。また、2014年及び2016年1月には、紛争下の性的暴力に関するシンポジウム等をICRCと日本が共催し、幅広い関心を得ることができた。</p> <p>・マウラー総裁は2013年及び2015年訪日して総理表敬等を行い(両回ともに天皇皇后両陛下に謁見)、ハイレベルで我が国との緊密な関係を構築。</p> <p>・ICRCのプロジェクト実施責任者である事業総局長は毎年訪日し、日本政府の人道支援関係者と幅広く協議を実施。</p> <p>・我が国はICRCドナー会合(毎年)に参加し、我が国の意見を積極的に表明し、反映させている。</p>				
3. 当該機関等の組織・財政マネジメント	<p>・ICRCは、長期化する紛争による影響も含めた人道支援ニーズを正確に把握することに努めつつ、組織・財政マネジメントを行っており、欧米等主要ドナーによる国際機関に関する評価では、主要国連機関と同レベルの極めて高い評価を得ている(評価基準は、英国は「組織の強靱性」、「開発目的への貢献度」、豪州は「結果と妥当性」、「組織的行動」など。)</p>				
4. 当該機関等における邦人職員の状況	<p>・邦人職員は過去5年間で187%増(2011年8名→2016年23名)。駐日事務所(2009年開設)による邦人職員増強努力、ならびに、ICRC本部による職員資格要件の緩和(言語要件を従来の英・仏2言語から1言語へ、非スイス人の積極的採用など)の成果。</p> <p>・ICRCの主要ドナーである我が国との関係に配慮し、本部資金調達課長に邦人職員を活用。</p>				
5. 我が国拠出の執行管理、PDCAサイクルの確保	<p>ICRCにおいては、以下の形でPDCAサイクルを確保している。</p> <p>①計画段階(Plan):プロジェクト・プロポーザルを精査。</p> <p>②実施段階(Do):我が国の重点外交政策を踏まえ、予算拠出、案件実施、モニタリング。</p> <p>③評価段階(Check):最終報告書により、成果実績等を確認・評価。</p> <p>④フォローアップ段階(Act):政府代表部とICRC本部の間での意見交換やICRC側幹部訪日等を通じて、問題点の指摘、改善の提案、より効率的な案件選定を検討。</p>				
担当課・室名	国際協力局 緊急・人道支援課				